

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐむ教育の推進		
<p>1 一人一人の児童生徒の尊重</p> <p>学校は、一人一人の子どもを大切に指導や対応できていると思いますか。</p>	<p>2 友達への思いやり</p> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>3 道徳・心の教育の充実</p> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に向けていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
<p>一人一人の児童の尊重について児童の「4」「3」の値が8%上昇しており、特に「4」の値が12%上昇している。教職員の「4」「3」の値も10%上昇している。日常における丁寧な指導とともに、教育相談の成果が考えられる。教職員がスキル向上のための研修を行い、児童へ事前にアンケートをとって行うなど、充実できていた。2友達への思いやりについて、児童の「4」「3」の割合が100%ということは、学校が取り組んでいる人権教育等の取り組みの効果と考える。3道徳・心の教育の充実については、教職員の「4」の評価が32%上昇している。生徒指導モデル校の指定を受け教育活動全般で自己肯定感の高揚を目指す取り組みを行った。また、道徳科と生徒指導の関連を図った取り組みや、心がやげ月間の保護者授業参観が、道徳の授業の充実にもつながったのではないかと考察される。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進		
<p>4 意欲的な学習態度</p> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>5 授業力向上</p> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>6 タブレット活用</p> <p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p>
<p>4意欲的な学習態度について児童の「2」「1」の割合は7%であり、昨年より4%減少している。5授業力向上では、教職員の「4」の割合が16パーセント上昇している。教職員の授業改善に対する自覚の深まりと考える。6タブレット活用についての児童の「4」「3」の割合は昨年と大きく変化はないが、意欲的に授業に取り組む児童の割合が増えている。タブレットを有効として授業力が向上した調べ学習や話し合い活動など、児童主体の学習が展開されていると考察する。また、保護者の「4」の割合が13%上昇した。AIアプリを活用したり、音読を録音して教師へ送信する等活用促進が保護者にも浸透してきている。</p>		

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実			②特別支援教育の推進		
<p>9 いじめや問題への対応</p> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<p>10 学校の支援体制</p> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>	<p>11 共生社会を担う人材の育成</p> <p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p>			
<p>9いじめ問題への対応の児童・保護者の「4」「3」の割合が、それぞれ8%4%上昇している。毎月のアンケートの結果をもとにした早期発見、早期解決でいじめの芽を摘み取る取り組みの成果に、児童は満足していると思われる。児童の「2」の割合が5%である。学校としてこの数字を限りなく0にする努力をしていく体制を整えていきたい。10学校の支援体制について教職員の「2」の割合が15%減少し0になった。共通理解していくためには教職員の高い意識が必要であり、見つめる会の実施による共通理解・支援が必要な児童のサポートを全職員で行う、スペシャルサポーターの実施で、より意識が高まったのではないかと考える。11共生社会を担う人材の育成は、保護者の「2」「1」の割合が10%近い割合を占める。今後、啓発していきいかなければならない。</p>					

①子どもたちの身近な安全対策の充実		②最適な学習環境の整備	
<p>12 安全と事故防止</p> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>13 施設・設備の安全管理</p> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>		
<p>12安全と事故防止については保護者の「2」「1」の割合が3%上昇し12%である。コロナ禍の中で登校班通学ができないことによる不安の表れではないかと考える。</p>		<p>13施設・設備の安全管理について児童「4」「3」の割合は89%である。毎月、職員で安全点検を実施、修繕等対応できている。樹木伐採、校内LED化等、施設の整備も進んだ。</p>	

③家庭・地域社会との連携強化	
<p>14 教育方針・目標の理解</p> <p>学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。</p>	<p>15 家庭や地域との連携協力</p> <p>学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。</p>
<p>14教育方針・目標の理解 15家庭や地域との連携協力について、評価の割合は、昨年と大きな変化はない。新型コロナウイルス感染症の影響で直接、対面での連携は難しくなってきた。しかし、花園連絡メール、タブレット端末のロイノート、電話、紙面でのお便り等様々なツールで多くの情報を発信したり、PTAと連携し教育活動を行うスタンスも評価された結果ではないかと考える。</p>	

④本校の教育		
<p>16 家庭学習の定着</p> <p>お子さんは、積極的、計画的に家庭学習に取り組むことができますか。</p>	<p>17 タブレット端末のルール</p> <p>お子さんは、ゲーム、タブレット端末の使い方のルールを守ることができますか。</p>	<p>18 早寝早起き朝ごはん</p> <p>学校は、「早寝早起き朝ごはん」の推進に組織的に取り組んでいると思いますか。</p>
<p>16家庭学習の定着化について 17タブレット端末のルールについて、18早寝早起き朝ごはんについて、3項目とも学校と家庭が連携しながら、児童に身につけさせた力である。教職員と保護者の意識の高まりがとて大きいことに感念がある。どの項目も、保護者に対して児童の「4」「3」の割合が大きいのは「できている」という評価基準の差であると考えられる。家庭学習については「家庭学習習慣の定着」の取り組みが評価された。タブレット端末のルールについては、家庭とのルールの共有、早寝早起き朝ごはんでは、すこやか週間の結果等を様々な方法で、周知するため積極的に発信していくことが必要と考える。</p>		

来年度の具体的な取り組みについて

「夢を持ちともに学び合い心豊かにたくましく生きる児童の育成」という教育目標に向かって全職員、一丸となって児童の育成に取り組んだ。よかった取り組みはぜひ、来年度に引き継ぐ必要があるし、今年度の課題となる部分は改善していく必要があると考える。

【教育相談】心の関係性の結果をもとに一人一人と時間を確保しての教育相談を行うことは、効果があった。教職員も教育相談についての研修を受けるなど、カウンセリングスキルの向上に取り組んでいく。子どもたちの悩みを解決するために必要であれば関係機関と連携することも視野に入れていきたい。

【校内研究の充実】生徒指導の三機能を通して、授業、日常生活の充実を図り、児童の自身感情と共感の人間関係の育成を図り、学校教育目標の実現を図っていく。【タブレット端末の有効活用した授業づくり】今年度は分散登校がありタブレット端末を使い、オンライン学習を行った。職員研修によりスキル向上にも取り組んだ。来年度も、分ける楽しい授業づくりのためにユニバーサルデザインの視点でのタブレット端末の活用を模索し、実践につなげていく。AIアプリの積極的活用も取り組みを行っている。同時に、情報モラル、メディアの関わり方について保護者と共通認識し、共通指導ができるよう一歩前進していききたい。

【すこやか朝ごはん】子どもたちの早寝早起き朝ごはんについての意識を高めるために毎月、PTAと連携して取り組みを行っている。月ごとにあいさつやタブレットのルールなどの項目も盛り込みながら啓発していったが、効果的だったので、来年度も継続して取り組んでいきたい。

学校関係者評価

○タブレット端末の家庭での使い方、家庭学習、早寝早起き朝ごはんは、学校と家庭が協力してやっていたものであり、主体は家庭である。家庭教育の推進が必要である。コロナ禍の中でもできることを探して活動していきたい。少しずつでも、取り組んでいくことで協力してくださる人材の輪が広がっている。

○子どもたちの登校の様子を見てみると、登校班での登校は複数登校となるが、コロナの影響で登校班を取りやめている期間は、車通りの少ない道を一人で歩いていたりするので、心配な面もある。地域の人材に協力してもらって登校の見守りを行っている。先生方には朝から授業の準備等に力を注いでほしい。

○不登校傾向の児童がいるように、保護者、本人と学校、担任との関係維持を継続してほしい。タブレット端末も有効活用してほしい。

○保護者の様々な声を反映しながら学校を運営していくことは、大切なことである。しかし、一人一人の意見に流されるのではなく、学校としてしっかりと目標を設定し、そこに向かって「教育」に取り組んでほしい。また、「教育」でできる先生同士で高め合っていくしてほしい。そのための同僚性は必要ではないかと思う。

○PTAの加入率が低くなってきている学校もあるようだ。PTAの定率も必要と思われるが、今後、学校はPTAに加入しない家庭との連携も考えておく必要性を感じる。ヤングケアラーという言葉もできてきたので、家庭との連携はより密に場合により、よっては関係機関と連携しながら家庭を見ていく必要性を感じる。